

第2回野洲市商工業振興基本計画検討委員会 議事録要旨

- 日 時 令和2年10月8日(木) 14:00～16:00
- 場 所 コミュニティセンターやす 研修室1、2
- 委 員 <全員出席>
金井 萬造 委員長、松沢 松治 副委員長、田中 勝也 委員、多田 裕 委員、
村川 強 委員、梅景 俊之 委員、北村 尚介 委員、橘 円 委員、
水島 左知子 委員、武内 了恵 委員
- 事務局 環境経済部 西村次長、商工観光課 行俊課長、藤村専門員、川口主任
- 傍聴者 なし

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

- ・野洲市商工業振興基本計画(案)の具体策の検討について

→事務局が、基本計画(素案)の第1章～4章まで流れを説明。

内容:委員の皆様にお聴きした意見を踏まえて、前回の委員会資料からの修正を行い、基本目標を6つから3つに絞った。3つの目標を「呼び込む力」「つなげる力」「生み出す力」とし、素案を作成した。

～委員による意見交換～

4. その他

会議で指摘いただいた部分の対応、主に数値目標、取り組む施策の整理をし、次回の会議に向けて進めることを確認。

5. 閉会

❖委員からの主な意見・質問

◇創業塾について

【委員長】

過去の受講状況は?実際に創業された実態はいかがか。

→【副委員長】

受講者は5～6年前はもっと多かった。受講された中での創業者は、2～3割。市内に留まらず他市で創業される人もいる。

→【委員】

新規創業もあれば、業態を変えた二次創業もある。単に店を持つだけでなく無店舗創業もある。野洲市だからこその特徴のある創業塾であるといふ。

◇今後予測される国の動き

【委員】

国は、中小企業について、まずはコロナ禍にあるので支援を行っているが、おそらく一段落すると生産性を一つの目安とする姿勢になるだろう。中小企業の環境については、そういうことも念頭に置いた方がよい。

◇商工業の抱える課題

【副委員長】

後継者問題があるが、それ以前に、市民が小さい店に行こうとしないことしないことが一番の課題。商店が少なくなっている。ここにきて、コロナ禍が拍車をかけ、商業者の意欲が減っている。

→【委員】

インターネットの普及で成り立たなくなっている商売もある。また、店を持たず自宅で始める人等、商売も変わってきている。

→【副委員長】

最近の創業は、ITばかりが目立つように思う。事業承継は大事だ。

◇基本計画の印象と数値目標の設定

【委員】

納得性のあるものになっていると思う。これをあまりにも細分化すると複雑難解になる。我々や市民がそれぞれ役割を持ち、それを積み上げてゴールにつなげるという意味で理解している。一方で、可能な範囲でよいので市民が見たときに5年後、10年後の姿にイメージが湧く数値を入れることで大きく印象が変わってくる。例えば市街化区域の面積や伸び率、或いは労働人口や比率などを挙げることで、住む人、労働人口が共に増えるイメージが湧く。結果にコミットするため、努力の積み上げの結果を、努力目標という形で掲げるとよい。

→【委員】

書けば書くほど難しい。大まかな計画にして、進めていくのが良い。

→【委員】

他市の計画では、就業者数を用いているところもあり、こういうものを用いるとイメージがつく。

→【委員】

我々が期待しているのは、国道8号バイパス。これにより、物流も通勤関係も変わる。さらに、駅前が発展していくことで、社員の住むところができ、働く効率が上がる。会社にすぐに来れるし、交通費もかからない。国道8号バイパスが令和6年を目標にして動いているのであれば、あえてここに書いたらよい。ある程度決まっていることや目指していることがあれば、こういう風に進んでいますと示すとよい。

→【委員】

仰る通り、数値がないと目標管理がなかなかできない。せめて細かいものではなくとも一つの目標に対し一点あるいは各項目に一点を設定するなど、事務局を含めて考えていきたい。国道8号バイパスは令和6年を目途に開通するという話では進んでいる。具体的な数字があったほうが市民に伝わりやすい。

→【意見】

一つの意見としてであるが、バイパスができると交通が便利になり、逆に野洲に住む理由がなくなる場合も考えられる。野洲市に住みたいと思ってもらうことが大切になる。

◇金融機関の支援と役割

【委員】

金融機関は、融資した企業が5年くらいまでで、この先残る会社かそうでないかを見極めている。また、単に企業にお金を貸すだけでなく、税の知識を伴うことも可能な範囲で伴走支援をしている。意見として、他のまちには創業できる場所があったりするが、野洲はどこで創業をしたらよいかが、すぐにはわからないなど感じる。

◇実施主体

【委員】

基本目標に対する実施主体をもう少し具体的に書かれるのがよい。経済団体とは何を指すのかわかるように、また、金融機関には市内の銀行3行の他にJAも含まれるだろう。その辺が分かるように。

→【事務局】

表現を工夫する。

◇地産地消

【委員】

野洲のものを売れる場所として、例えば竜王の道の駅にスペースを設けてもらうなどできないか。売るものに野洲の名前を示し、もっとアピールするのが良いと思う。

→【委員】

野洲市で売るだけでなく、付加価値が必要である。

→【副委員長】

湖岸の道の駅ではサイクリストが通るが、そこで期待されるような消費をするわけではない。

→【委員】

ただ売る場所を作るだけではよくない。他市の道の駅には寂しい印象を受けるものもある。

◇まちづくりの方針

【委員】

市の総合計画では、コンパクトシティを目指している。基本目標2には、どの地域にあっても市民生活と地域経済の循環をと書かれているが、ここは整合するのか確認が必要だと思う。

→【委員】

コンパクトシティばかりが進むと過疎化が進むのでバランスが大事であると思う。地域で取り組んでいることが続かなくなってしまう例もある。

→【副委員長】

市全体の活性化を目指すのではなく、まずは駅前の活性化をと思う。

◇支援可能な施策

【委員長】

しくみを作っていく中で、それを市が支援するのがよい。

→【委員】

一箇所にお店を集めてはどうか。

→【委員】

今後計画が進めば、駅前に病院とともに商業施設ができる話だが、その際、お試して商売できるスペースを作ってもよいのではないか。創業と言われるとハードルが高いが、本格的な商売までいかないもので構わない。また、そこでしか体験できないようなことをSNSで発信させるしくみができればよい。

◇PDCA

【委員】

PDCAそのものはよいが、どのタイミングで進捗を測るのかによって、どの指標を用いるのかが変わってくる。

→【委員長】

期間としては1つのことをやるだけでも3年くらいはかかるだろう。

◇野洲の特徴

【委員】

野洲らしいものは何があるのかとなったときに、何もないとよく言われるが、実は野洲には特徴がある。それは、滋賀県の特徴が全部ここにあるということである。山があり、川で囲まれている地形的な特徴であるが、これは滋賀県の縮図といえる。また、商売が熱心で、他県からのファンが来る店もある。